

しろや！ 広島城

Let's know Hiroshima Castle.

No.7

達筆すぎて・・・読める？

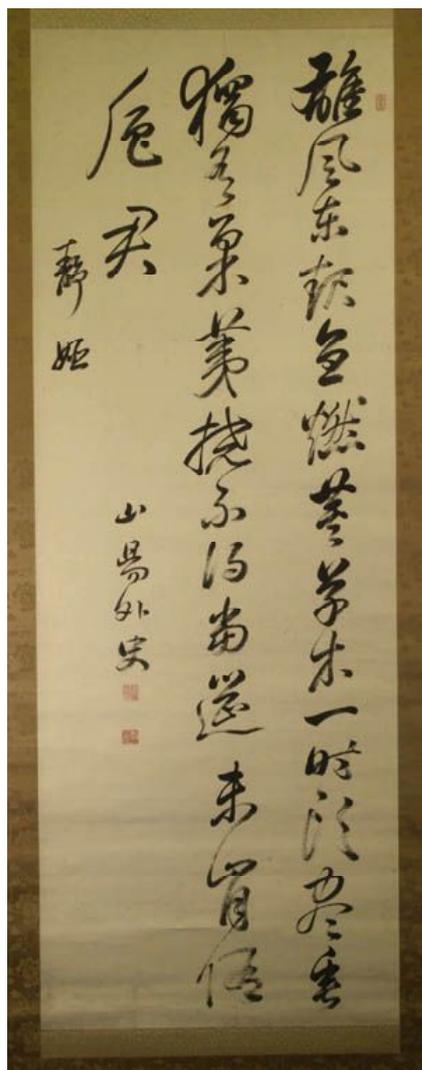
右の写真の文字が読めるでしょうか？

今回の企画展「^{らいけ}頼家の人びとの書」では、^{らいさんよう}頼山陽を中心に、その父の^{しゅんすい}春水や^{しゅんぶう}叔父の^{きょうへい}春風、^{なぐさ}杏坪、^{さんりやう}山陽の息子たちの書などを展示します。頼家は、もともと竹原で染物屋を営む町人でした。春水の代で広島藩に登用され、現在の中区袋町に屋敷を構えました。

さて、今回展示する書の大半が文字をくずして書いてあり、活字に慣れた現代の我々には読みにくいものです。そこで、これらの書を読み解き、書き手のおかれた背景もふまえ、何を思いながら書を書いたのか、その一端を感じられるように展示します。 (田)

頼山陽は安永9年(1780)に生まれ、天保3年(1832)に亡くなった人で、江戸時代後期に活躍しました。山陽の書いた歴史書「日本外史」が、幕末の志士たちに大きな影響を与えたことから、学者としての面が強調されますが、画家としても、そして書家としても名をあげた人物でした。

写真の書は、^{みなものよしつね}源義経の恋人として有名な^{しずかごぜん}静御前に、山陽が思いをはせて作った詩です。詩の内容は、強風にも倒れることのないかやの芽に静御前を例えたものです。義経が^{よりとも}兄頼朝に追われる身となり、静御前は捕えられ鎌倉に連れてこられても、いとし義経のことを思い、舞を舞ったという歴史上の出来事に山陽が感動している様子が思い浮かびます。



「静姫」(当館蔵)

企画展のご案内

頼家の人びとの書

会期：平成18年2月11日(土)～3月19日(日)

会場：広島城天守閣第4層

展示ガイド

企画展開催中の日曜日

14:00～(15分程度)

学芸員による企画展の展示解説を行います

ツル 城下町には鶴がいた！

『しろうや！広島城』創刊号の「ひろしま歴史の小耳①」で広島城下町には現在に比べれば自然が多く残っていて、いろいろな動物（なんとプタまで）が姿を見せていたというお話をしました。今回は城下町にいた動物シリーズ第2弾として鳥の話しようと思います。

広島藩に仕えた小川清介というお医者さんが、明治33年（1900）に60歳を過ぎた時、「老いのくりごと」という江戸時代の思たかい出話を書きました。この中には藩主のための鷹狩場たかにいた鳥類について記されています。鷹狩とは、飼たかい慣らして訓練したハヤブサ・オオワシ・ハイタカなどを使って鳥や小動物を捕まえる狩りのことで、藩主の鷹狩場が現在の広島市役所周辺にありました。

「老いのくりごと」によると、ここでは一般の人々が鳥類を捕まえることが禁止されていたために、秋になるとガン・カモなどの色々な渡り鳥が沢山やってきていました。

そしてその中には、なんとツルもいたのです。



鷹狩場のほか、比治山にはソデグロ（袖黒）というツルの一種がツねに棲んでいて、あたりの空中を飛び回っていたとも記されています。ソデグロとは「ソデグロツル（袖黒鶴）」のことと思われる。ソデグロツルは全身が純白、翼の風



小倉武駿 筆 猛禽捕鶴図
広島城 蔵

切羽が黒色をしており、現在では日本には稀にしか来ないそうです。その他、元治元年（1864）に作成された広島藩の記録から、ソデグロツルのほか、マナヅル（真鶴）とクロツル（黒鶴）が藩内にいたことが分かっています。

ツルは昔から尊い鳥とされ、中国では鳥の中のでの最高の位「一品」が与えられていました。そのため役人の一品の位を表す服にはツルのデザインが織り込まれたのですが、日本でおめでたい時に着る晴れ着やネクタイに鶴の柄が使われるのはその名残です。

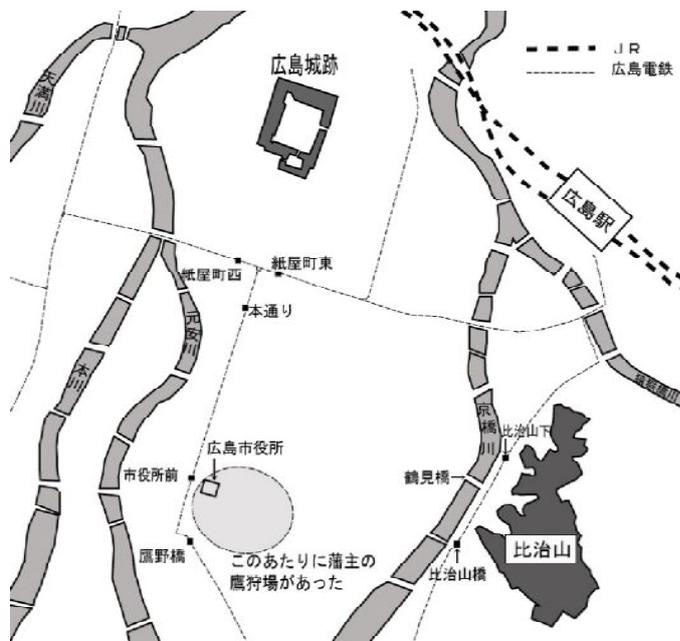
というわけで、鷹狩においてツルは最高級の獲物でした。ツルを狩ることができるのは朝廷・将軍・大名のみで、捕獲したツルは将軍家から朝廷へ、諸大名から将軍家への献上品とされたのです。逆に他の人々は捕ることが禁止されていて、例えばツルが田畑を荒らしても追い払うことが出来ませんでした。「老いのくりごと」にも「ツルが人を見ても怖がらなかった」と記されています。

しかし、鷹狩でツルを捕まえることはそう簡単ではなかったようです。広島藩主に仕えていた奥田繁成は優秀な鷹匠（鷹狩に使うタカを訓練する人）でしたが、その彼でも藩主の鷹狩でツルを捕まえたのは4回で、そのつど褒美をもらっています。そのうち1回は宝暦3年（1753）のことで、彼が訓練したハヤブサが藩主浅野宗恒の腕から飛び立って見事にツルを捕まえました。さぞ晴れがましいことだったでしょう。ちなみに、この時にツルを捕まえたのは雌のハヤブサ

でした。タカの仲間は雌の方が大きく、より大きな獲物が狙えたので、鷹狩では雌の方が尊ばれたのです。また、このハヤブサは比治山で捕らえられたもので、比治山にはソデグロツルやハヤブサなど多くの鳥類がいたことがうかがえます。

さて、鷹狩で捕らえたツルはどうしたのでしょ。実は食べていました。先にも書いたように、ツルは高貴な鳥で、しかも長生きであるとも考えられていました。そのため、その肉や血が身体に良いと思われていたのです。また、捕獲したツルを飼育することもあったようで、そのための飼育小屋が京橋川にかかる鶴見橋付近にあったとされています。明治13年(1880)に造られた鶴見橋の名の由来は、この鶴見小屋に由来すると、この辺りでツルが舞飛びの様子がよく見られたからとも言われています。

なお、「老いのくりごと」には、鷹狩場にいたこれらツルなどの鳥類は、明治維新後になって次々と狩られてゆき、最後には姿を消したと書かれています。さらに、「私が子供のころにはコウモリ蝙蝠が多くいて、たそがれ黄昏時から夜明けまで数え切



れないくらい飛び回っていたのに、最近は見ることがごく稀になってしまったのは何が原因だろうか。」とも書かれています。これはおそらく急激な町の近代化によるものと思われます。鷹狩場の鳥たちもまた、狩られただけでなく、環境の変化にしたがって姿を消していったのかもしれませんがね。

(本田)

おしえて! 広島城博士 5

Q. 広島城の石垣の石は、どこから取ってきたの?

A. 広島城の築城がはじまり工事が本格化した間も無い天正17年(1589)8月末、城主の毛利輝元は家臣に、工事の内容は、堀の工事と石垣用の石材集めと伝えている。石材集めは、築城当初から行われていたようじゃ。

では、どのような石材をどこから集めたんじやろうか?

石材の多くは花崗岩かこうがんという種類の石で、広島湾一帯にごくあたりまえにある石じゃ。これは磨き上げると美しいので、墓石などの材料としても利用されておる。次に場所じゃが、専門家の調査によると、黄金山(南区)・江波皿山(中区)・比治山(南区)など築城当時は島だった所や、広島城に近い広島湾沿岸部、さらに遠くでは倉橋島(呉市倉橋町)、山口県南東部の周防大島などの島々からも運んできたことが明らかになっておる。船を使い、おそらくは石材を水中につり下げて運んだんじやろう。

さあ、何でも聞いてごじゃれ!
今回の質問はこれ!



こんにち 今日でも本丸・二の丸に残る石垣を観察すると、ところどころにフジツボやカキ殻が付着した石材を見つけることができる。このような石材こそ海沿いの岩場から石を運んできた証拠なんじゃ。山から切り出した石材に、海の貝がつくわけではないからのお。

(篠原)

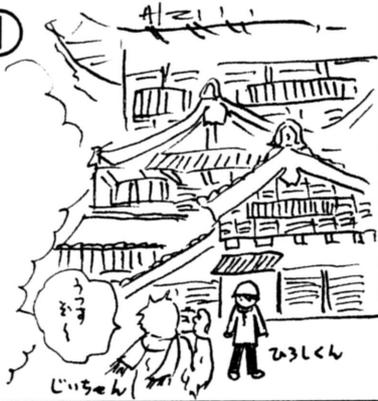


から カキ殻が付着した石材(天守台石垣)

私のおすすめスポット

広島城の記念写真を撮るなら...

①



てんしゆかく 天守閣を出たところで記念撮影されている方をよく見かけます。ところが、建物に近づきすぎていると、できた写真はどこで写したものかわからなくなってしまいます。

②



カメラマンが、思い切り南側に下がれば、何とか天守閣全体をキレイに写すことができます。でも、人物はと〜っても小さくなっちゃいます。

人物はなるべくカメラマンに近づいたほうがよさそうです。



ここ

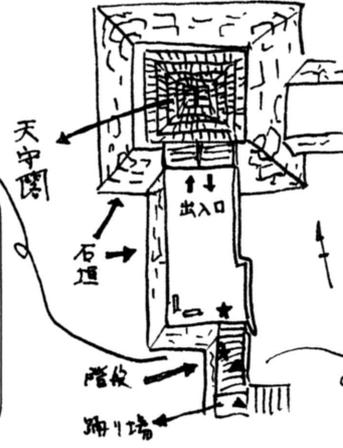
なので、次の2とおりをおすすめしてみます。

階段を活用しよう！



A: 全身を写すなら *

- ☆ 写す人 (カメラマン) 階段の中段くらいに立って、あおるような感じでフレームの中に天守閣を収めましょう。
- ☆ 写してもらう人 なるべく天守閣から離れて、階段の一番上の段に立ちましょう。



B: アップで撮るなら *

- ☆ 写す人 (カメラマン) 階段を降りて踊り場に立ち、フレームの中に天守閣を収めましょう。
- ☆ 写してもらう人 階段の下から数段上がって立ちましょう。



③

④

天守閣前の広場、もう少し広がったらもっと後ろから撮れるのに...何で広うせんかったんかね!?

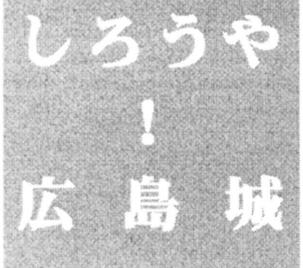


もともと広場じゃないけんのう。

え!? 何じゃったんここ??



ここは何だったのかな? このことは、またいつかお話しますね。(前野)



編集・発行
財団法人広島市文化財団 広島城
〒730-0011
広島市中区基町 21-1
電話 : 082-221-7512
FAX : 082-221-7519
平成18年2月 日発行

広島城利用案内
開館時間 : 9:00~17:30(4月~9月)
9:00~16:30(10月~3月)
<平成18年4月からの開館時間は、変更する場合があります>
入館料 : 大人360円(280円)
小人180円(100円)
()内は30名以上の団体料金
休館日 : 12月29日~1月2日
<平成18年4月からの休館日は、変更する場合があります>